神社の杜（四）

ビジターセンター所長　片柳　茂生

『氷の花』

「シモバシラは咲いていますか？」このような問い合わせが十二月から一月にかけてある。この御嶽山で冬に咲く野草といえば、狂い咲きのタチツボスミレ、それとオオイヌノフグリぐらいのものだ。確かにシモバシラという植物はある。シソ科の多年草植物で、別名をユキヨセソウ（雪寄草）といい、花期は秋である。冬に咲いているはずがない。実はここで言うシモバシラは、枯れた草の茎の回りに出来る氷の結晶なのである。シモバシラ、或いはユキヨセソウの名は、この姿に由来する。

残念なことに御嶽山には、シモバシラが自生していない。その代役を、カメバヒキオコシという植物が努めている。カメバヒキオコシ（亀葉引起）とは、秋に、茎の上部の花穂に青紫の小花をたくさん付け、高さは六〇センチ位になり、木陰を好む。葉の形は、紫蘇の葉にそっくりなのだが、中央の鋸歯だけが突出していて、亀が甲羅から尻尾を出しているように見えることから、つけられた名である。

初冬になると、地上には枯れた茎だけが残る。枯れた茎は、毛管現象によって地中の水分を吸い上げる。夜間の冷え込みによって、茎の中で凍り始めた水分は、茎を破り外に向かって次第に大きくなる。そして朝になると、水飴を割り箸で捏ねたような、真っ白い氷の花ができあがる。一度破けてしまった茎は、水分を吸い上げる力が弱まってしまい、氷の花も小さくて見すぼらしい物しかできない。

氷の花ゆえ、日中、気温が上がれば融けて消えてしまう。見られる時間も限られてしまうのである。

毎年十二月の中旬、朝の冷え込みが厳しい日を見計らって見に行くのだが、素晴らしい花に出会ったのは数える程しかない。

お見舞

今回の阪神大地震について、ご災難にお遭いになった方々に心からなるお見舞を申し上げます。

あとがき

○こよみの上では啓蟄とはいえ、御岳山上の積雪は三十センチを記録しております。見た目は銀世界の景色でも春めいてきた空は、風はまだ冷たくとも、何とはない明るさに満ちてきております。

○「神社参拝記」馬絹御嶽講々元の吉田一男様の玉稿を稿を賜わりありがとうございました。皆様方のご寄稿をお待ちいたしております。

平成七年三月十五日発行（片柳記）
〔非売品〕
編集　武蔵御嶽神社
☎〇四二八（七八）八五〇〇
印刷　㈱成和印刷
表紙写真　埼玉県和光市　末棟　義彦